

2/14

大村氏のルーツを  
探る

郷

土史講演会「大村氏はどこから来たのか」を、プラザおおむらホールで開催しました。

講演では、市文化財審議会長の久田松和則氏を講師にお迎えし、「大村氏の出自をめぐって」と題してご講演いただきました。久田松氏によると、大村氏の本拠は、現在の佐賀県鹿島市付近にルーツがあると推測されるそうです。

講演の後は、パネルディスカッションも行われ、会場に集まった約150人の皆さんは、最新の研究内容に熱心に耳を傾けていました。

郷土史講演会「大村氏はどこから来たのか」



2/19

国土交通省などに  
直接要望

大

村・諫早両市の官民で組織する「国道34号大村・諫早間整備促進期成会（会長・松本市長）」は、県および東彼杵道路建設促進期成会と共に、県選出国会議員、国土交通省、財務省および自民党本部に対し、要望活動を行いました。

今回は、西村明宏国土交通副大臣をはじめ、谷垣禎一自民党幹事長や稲田朋美政務調査会長らと直接面会し、国道34号大村・諫早間4車線化の一日も早い実現に向けて、地元の高い思いを届けました。

国道34号大村・諫早間4車線化要望



2/24

次期総合計画策定に  
向け提言書を提出

第

5次大村市総合計画策定市民会議（林田啓輔座長）は、計画への提言書を松本市長へ提出しました。

市民会議は、公募で集まった19人で構成され、今後のまちづくりについて意見を交わしてきました。

提言書は、「安心の暮らしと人づくり」「まちの魅力づくり」「安心快適なまちづくり」をテーマに、子育て世帯の経済的負担の軽減、空家の有効活用、災害防犯対策、商店街の活性化などを記載。今後は、この提言内容を十分検討し、総合計画の策定を進めていきます。

第5次大村市総合計画策定市民会議が提言書を提出



やりました！  
わがまち大村が、  
なんと全国8位に！

市長  
コラム  
vol.40

「一体なんのことだ？と思われたでしょう。実は、2月27日付け日本経済新聞の「強いまち」データは語る④」という記事で、子育てをしやすいまちとして、大村市が全国1,741市区町村の中で8位にランキングされました。人口1,000人あたりの小児科・産科・婦人科医師数や合計特殊出生率、人口増減率の順位を合算する新聞社独自の基準で順位付けをしたものです。

この記事を目にしたときは、とにかく驚きと喜びでいっぱいでした。その一方で、本当にそうなのか、と冷静に受け止めました。それが、次第に「なるほどそのとおりかもしれない」との思いが湧き上がってきました。大村市の強みとして、

- ・公共下水道などの整備により98.8%の下水道普及率
  - ・長崎空港、高速道路などの交通アクセスの良さ
  - ・企業誘致による雇用の確保
  - ・国立病院機構長崎医療センターをはじめ市民病院や開業医から成る医療ネットワーク
- などが挙げられます。

加えて、第2子保育料の無料化をはじめ、不妊症治療の助成や昨年11月にオープンしたことも未来館「おおむらんど」など、市独自の子育て支援に努めてまいりました。

これらの要因が、県内都市では唯一、人口が増えていることにつながっていると同時に、今回の高い評価に結び付いたと思っています。私は、長年大村市に住んでいる皆さんはもちろん、近隣都市や県外から転入してこられた皆さんから「大村はたいへん住みやすいまちだ」とよく言われ、まちづくりの手応えを感じています。

平成27年度は、医療費助成を小学校卒業までに拡大するほか、第3子以降への出産祝い金の創設などを予定しています。これからも市民の皆さんと共に、知恵を絞り、汗をかき、日本でもっとも住みたくなるまちを目指してがんばってまいります。

『子育てするなら大村で！』を合言葉に！！